

令和6年度 学校経営計画

四條畷市立くすのき小学校

校長 芝田 孝人

1 学校経営方針

四條畷市教育振興基本計画(令和4年1月)には、本市の教育の長期的かつ普遍的な将来像(夢)として、基本理念「みんなの学びが叶うまち～生涯 学び 夢 挑戦～」が掲げられている。

この基本理念に基づき、本校の子どもたちには、まず、自分自身のことを大切にしたいということを伝えたい。その上で、自分の周りにいる人たち、友達や保護者の皆さん、学校の先生や地域の皆さんなど、自分に関わりのある人達のこととも考えられる人に成長して欲しいという思いがある。そのために必要な力を本校で育成していくにあたり、令和6年度の学校教育目標を次のように定めた。

【学校教育目標】

「ウェルビーイング(Well-being) みんなの幸せを実現できる くすのき小」

～ 身体的、精神的、社会的「幸福」の視点から ～

- ・身体的「幸福」・・・ 体力向上、病気やけがの予防などに努め、身体が健やかであること
- ・精神的「幸福」・・・ 人とのつながり、安心感、楽しい、感動、感謝などポジティブな感情を持つこと
- ・社会的「幸福」・・・ 自分の役割や存在価値を自覚し自己肯定(有用)感を感じ、将来の夢や希望を持つこと

今年度は、上記「学校教育目標」を実現するため下記の7つの観点を学校経営の中心的な方針としたい。

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(教員の授業力向上)
- ・発達支持的生徒指導の視点を大切に「くすのきスタンダード」の深化(不登校の未然防止)
- ・専科教員を中心とした、体育科のカリキュラムの工夫と体育的行事の充実による体力の向上
- ・GIGAスクール構想に基づく、情報活用能力の育成や個別最適・協働的な学びの充実
- ・人権教育や道徳教育の視点を大切に、多様な考えを認め合える豊かな心の育成
- ・子どもを中心に据えた家庭・地域・学校の連携の充実(学校外施設との連携強化)
- ・教員の働き方改革の推進による、子どもと向き合う時間の確保・教師力向上

2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	・子どもたちが生き活きと笑顔で活動できる安心安全な学校
★めざす子ども像	・しっかりと考え、主体的に活動できる子 ・相手の気持ちに寄り添い、行動することができる子 ・粘り強く取組み、やり切ることができる子
★めざす教師像	・子どもの実態を的確に把握し、適切な指導ができる教師 ・主体的に課題を捉え、広い視野を持って解決できる教師 ・人間愛にあふれ、明るく前向きに仲間とともに学び続ける教師

3 学校の現状(よさと課題)

(1) 子どもたちの実態

本校の児童は、元気で明るく素直な児童が多い。業間や昼休みなどには、友だちと一緒に運動場を走り回る姿が印象的である。また、友だちに親切に優しく接することができる児童も多くいる。

しかし、じっくりと考えて行動することや自分の思いを相手に伝えること、粘り強く取組むことなどには、課題を感じることもある。

指導者がサポートすれば力を発揮できるのだが、自分たちで主体的に行動するには、低学年の段階から、その方法を知り、経験を重ね、高学年へと成長していく過程を大切にしていけることが必要であると感じている。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

本校は平成18年に、児童数が減少した四條畷西小学校と北出小学校を統合して誕生した。校区は四條畷市の西端に位置し南北に広がる。北西部が寝屋川市、南西部が大東市と隣接している。

校舎3階からは、東側に飯盛山の山並みを望み、その変化から四季を感じることができる。また、西側には小さくはなったが田園風景が残り、大阪平野に沈む夕日が稲穂を茜色に染める景色は見事である。まだまだ、自然環境が豊かな地域に位置している。

校内には先人の植樹による樹木が多く生育し、季節ごとに生活科や理科の観察を行う児童の姿もよく見かける。卒業制作の人工池にはメダカが泳ぎ、畑には学習教材となる植物が植えられ、児童が日々、世話に励んでいる。校庭は広く、その端には過去にPTAが作成したタイヤランドやみどり山が存在し、児童のよき遊び場となっている。

②地域

地域には、昔ながらの村や住宅地がいくつか存在し、その伝統的な行事が季節ごとに行われ、児童が参加する姿もよく見かける。学校への関心も高く、協力を惜しまない雰囲気がある。しかしながら、時代とともに生活様式も変化し、様々な行事の継続なども難しくなっているようである。

③組織(教職員、PTA、保護者)

教職員は熱心に学校全体の課題や児童個々の困り感を共有し、児童に寄り添いながら家庭と連携して、学習指導や集団づくりに取り組む姿勢を大切にしている。

今年度よりPTAへの加入が任意加入となった。加入率は九割を超え、多くの保護者にその活動の必要性を感じていただいている。個々に理由があり未加入となった保護者も含め、本校に通う児童の望ましい成長をいかに担保していくか。今後の活動の方向性を、みんなで思いを一にして模索していきたい。

(様式1)

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分Ⅰ『学校経営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
加配教員・担当教員を核に学校の教育力の向上をめざす		学校教育自己診断アンケート等、全国学力学習状況調査 児童・教職員アンケート等、NRT、すくすくウォッチ等
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
【児童生徒・教職員アンケート】 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れていましたか。 自分で計画を立てて勉強(学習)をしていますか。(学校や家で)	最肯定回答の割合(教員)40% 否定的回答の割合(児童)30%	○これからの変化の激しい時代を生き抜く子どもたちが、必要な資質・能力を身につけるには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要不可欠である。これまで本校で取り組んできた国語科を中心とした校内研修による成果を、授業改善加配教員(JK)を中心に、更に深めるとともに他教科へも広げていく。 ・「四條畷市授業スタンダード」を踏まえた校内研修の充実 ・理科を基盤とする他教科への発展 ・授業改善通信の発行による情報共有
【児童生徒・教職員アンケート】 (児童アンケート) ・あなたの学級は授業中間違って笑われない。 【学校教育自己診断】 (児童アンケート14) 学校に行くのは楽しい。 (児童アンケート15) すすんであいさつをしている。	最肯定回答の割合50% 肯定的評価90% 肯定的評価80%	○いじめ虐待等対応支援体制構築事業担当教員を中心に、発達支持的生徒指導の視点を大切にした教育活動を展開し、児童の自己肯定(有用)感の育成や児童同士(集団作り)、児童と教員のつながりを推進し、児童一人ひとりにとって、安心安全な居場所づくりに努める。 ・全教職員が行事や授業など全ての学校教育活動において、共通の認識を持ち指導に当たる。 ・児童会活動を中心に「くすのきスタンダード」の深化を図り、子どもたちの主体的な活動を推進する。
【学校教育自己診断】 (児童アンケート19) 授業や行事、休み時間に運動することで、体力がついてきたと感じる。	肯定的評価85%	○教科担任制「体育」専科教員を中心に、体育科のカリキュラムを見直し、子どもたちの望ましい運動経験を確保して、個々の体力向上をめざす。また、様々な体育的行事を経験することで、達成感や充実感を味わい、仲間とともに協力して取り組むことの素晴らしさを伝え、将来にわたり「運動好き」な子どもたちを育

(様式1)

(保護者アンケート15) 学校は、授業や行事などを通して、子どもの体力向上に取り組んでいると思う。	肯定的評価 90%	んでいく。
--	--------------	-------

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
学校組織力の向上		学校教育自己診断アンケート等、全国学力学習状況調査 児童・教職員アンケート等、NRT、すくすくウォッチ等
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
【児童生徒・教職員アンケート】 (教職員アンケート) 学校の学校教育目標やめざす子ども像を意識して指導できている。 【学校教育自己診断】 (教職員アンケート5) 学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全職員間で共有し、取組みにあっている。	最肯定回答の割合 60% 肯定的評価 90%	○教育目標や学校経営方針などの周知を徹底し、学校運営の方向性の明確化を推進することで、教員同士の同僚性や学校組織力の向上を図る。
【学校教育自己診断】 (保護者アンケート17) 学校は、子どもの安全確保や事故防止に配慮している。 (教職員アンケート11) 授業の中でICTを有効に活用するよう努めている。 (教職員アンケート17) 人権尊重に関する様々な	肯定的評価 95% 肯定的評価 80% 肯定的評価 85%	○教育目標や学校経営方針などの共有を図ることで、教員が担当する分掌のねらいが明確となり、各担当が創意工夫しながら、やりがいをもって目標達成に向けた教育活動に取り組むことができるよう配慮する。 ・安心安全な学びの場づくりを全教職員で意識し、自然災害や不審者、アレルギーなどへの対応が迅速かつ適切に行えるよう、チームとして取り組む。 ・GIGAスクール構想に基づく、ICT機器の活用により、情報活用能力の育成や個別最適な学び・協働的な学びの充実など、子どもたちが未来社会を生きるために必要な資質・能力の向上

(様式1)

<p>課題や指導方法について、教職員間で共有している。 (教職員アンケート14) 支援教育について理解を深め、授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行っている。</p>	<p>肯定的評価 95%</p>	<p>を図る。 ・教育活動全体を通じて人権教育や道徳教育の視点を大切に、学校全体で個を大切に、多様な考えを認め合える豊かな心の育成に努める。 ・合理的配慮や基礎的環境整備の視点から、個に応じた支援が受けられるよう、授業におけるユニバーサルデザインの考え方を推進し、全ての子どもが学びやすい授業づくりに努める。</p>
---	----------------------	--

目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)	
教職員の資質向上(働き方改革)とサービス管理	学校教育自己診断アンケート等、全国学力学習状況調査 児童・教職員アンケート等、NRT、すくすくウォッチ等	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
<p>【児童生徒・教職員アンケート】 (教職員アンケート) 学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか。 【学校教育自己診断】 (教職員アンケート15) 指導の内容や方法について、学年で話し合う機会を持っている。</p>	<p>最肯定回答の割合 50%</p> <p>肯定的評価 90%</p>	<p>○教員が良好な教育活動を実施するための時間を確保するため、授業時数の見直しや校務分掌等の再編に取り組み、適切な人材配置に努める。 ・教職経験年数に応じた職責を意識し、自身がめざすべき姿(教員力)の習得に努める。 ・教職経験年数の少ない教員の育成について、学校全体で組織的に行う。(日常的なOJTの推進)</p>
サービス規律の徹底や不祥事の未然防止について、職員会議等の機会を活用して周知徹底する。	<p>実施回数 5回以上</p>	<p>○同僚性の向上を図り、風通しの良い職員集団をめざすことで、お互いに声をかけやすい関係を育み、不祥事等の未然防止に努める。 ・認め合い、励まし合える職場環境づくりに努める。 ・校内ミニ研修を実施するなど啓発に努める。</p>

(様式1)

目標設定区分4 『地域連携と渉外』		
A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
家庭教育への支援と地域の教育コミュニティづくり		学校教育自己診断アンケート等、全国学力学習状況調査 児童・教職員アンケート等、NRT、すくすくウォッチ等
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
【学校教育自己診断】 (保護者アンケート4) 学校は、教育目標や指導方針を文書や通信などでわかりやすく伝えている。 (教職員アンケート21) 児童の様子について、家庭と連絡を取り合うなど連携している。	肯定的評価 95% 肯定的評価 100%	○「生きる力」の育成に向けては、家庭との連携を図り、子ども達の学習意欲が高まり、学習習慣が確立するように取り組むことが重要となる。また、学びに向かう生活基盤の確立は、子ども達にとって大きな力となる。子ども達一人ひとりの生活背景に配慮しながら、学校での学習活動に家庭からの協力を得て、共に子ども達を育てる視点で連携していく。 ・家庭環境の把握と相談しやすい体制づくり ・家庭教育を支援する福祉部局等との連携
地域とともにある学校づくりに係る組織の充実	学校運営協議会を中心とした活動の実施	○学校がめざす教育目標やその取組みの方向性などを学校運営協議会(CS会議)を通じて地域と共有し、協力を得ながら学校教育活動の充実・進展を図る。 ・四條畷西中学校区の学校運営協議会での情報共有 ・地域コミュニティとの協働による学校運営の充実